

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 1号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地の9		
自己評価作成日	令和2年1月2日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0196400105-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来たる3月1日で7年目となり、職員のスキル向上のための施設内外での研修会の実施や各種資格取得のサポートなど職員育成に努めています。
また、入居者様の日常生活では状態に合わせて掃除や洗濯など職員と一緒にこなすことで、ADLの維持・向上に繋がるよう努めています。
その他、ご家族様にはイベントなどがあった場合に参加してもらったり、状況をお便りとして伝えるなど、交流の機会ももてるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム優芽」は、道北西部の苫前町古丹別の静かな住宅地に立地している平屋建て2ユニットのグループホームである。近隣には消防署や駐在所、郵便局、コンビニエンスストアもあり生活の利便性に優れている。大きな窓に面した開放感のある居間には大きなソファがあり、好きな場所で利用者がゆっくり過ごすことができる環境になっている。昨年新たに就任した管理者を中心に、全職員で活発に意見交換しながら利用者の状況を把握し、笑顔でその人らしい生活が送れるように熱心なケアに取り組んでいる。開設者の会長も日々の業務に関わりながら職員の言葉に耳を傾け、働きやすい職場環境を整備している。町内のお祭りや凧揚げ大会に出かけたり、文化祭に作品を出展するなど積極的に地域交流を行っている。保育園児や子供神輿の来訪など、子供たちと交流する機会も多い。町役場の担当者や運営推進会議や認定調査の機会に情報交換したり、役場を訪問して疑問点を相談するなど、日ごろから連携を深めて協力関係が築けるよう取り組んでいる。医療面では、以前からのかかりつけ医の往診の他、受診も事業所に対応し、主治医と細やかに情報を共有しながら適切な医療支援を行っている。管理者を中心に常に明るい笑顔で熱心にケアに取り組む職員の姿勢は、利用者や家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念としては、地域密着型よりも利用者様本意を意識した理念設定をしており、従事した当初は意識して業務に当たっていたが、現行ではあまり意識できていない状態であった。	「私たちは、ご利用者の思いや個性を尊重し、笑顔があふれる穏やかな生活を送って頂けるよう支援致します」という施設理念を作成し、スタッフルームなどに掲示している。職員間で確認する機会が少なく、全員で共有しているとは言えない。	施設理念を基に全職員で地域密着型サービスを意識したケア理念などを作成し、職員間で共有しながら実践につなげるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域全体での避難訓練や祭典など施設外での交流の場に加え、地域の保育所にご協力頂き、施設内で小規模のお遊戯会を開催するなど施設内外問わずに交流の場をもっている。	利用者と一緒に神社祭りや凧揚げ大会に出かけて地域住民と交流している。文化祭に作品を出展することもある。保育園児が来訪して遊戯を披露したり、高校生が書道パフォーマンスを見せてくれる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や散歩などで地域の人との関わりを持つ中で、認知症とはどういった病気、どのような支援が必要となるのかを見たり、感じてもらえるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域にある様々な職種の方や、行政機関の関係者など多種多様な方々に参加してもらい、各専門分野の事や疑問に思うことなど意見交換を行ないながらサービスの向上に努めている。	役場職員や民生委員、消防署員や警察官も参加して事業所の報告を中心に開催している。家族に会議案内と議事録の送付は行っていない。今後は事前にテーマなどを設定し、参加できない家族の意見も生かせるようにしたいと考えている。	全家族に、テーマなどを記載した会議案内と議事録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当職員と電話またはメールで必要事項等のやり取りを行っており、不明な点等があれば相談または協力をしてもらえるよう努めている。	管理者や計画作成担当者は、書類の手続きなどで役場を訪問したり、入居時の対応について相談している。生活保護担当者と該当する利用者の情報を交換したり、認定調査の方と話をするなど日ごろから行政と連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設理念にも掲げているように身体拘束を行わない意識の元、業務に従事しており、定期的に研修など身体拘束について考える機会を設けている。しかし、利用者様の離設による事故防止のため玄関の施錠はしている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束廃止マニュアル作成している。社会情報などの事例に沿って内部研修を実施し、職員間で拘束のないケアに取り組んでいる。内部研修や身体拘束適正化委員会資料を、更に分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する意識向上のため、研修や事例を紹介するなど職員が虐待を行わない事、他の職員にもさせないように普段からコミュニケーションを図りながら防止に努めている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など、必要な知識を学ぶとともに他の職員にも広められるよう回覧等により周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、書面には無いことでもご家族の不安や疑問に思う点については説明しており、改定などがある場合には不明点が無いよう書面等で対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見や要望を伺ったり、玄関へ意見箱を設置することで直接伝えられない事などについても聞き取りができるよう努め、頂いた意見・要望・苦情等は随時運営に反映できるようにしている。	家族の来訪時や電話、メールなどで利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、個別に「状況報告書」に家族とのやり取りを記録している。季節ごとの広報誌と一緒に個別の様子を伝えたり、誕生日に写真を送付して本人の近況を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体での会議の場や、ユニット毎の会議を通して職員の意見等を取り入れられるように取り組んでおり、必要に応じて責任者による検討会議も行なっている。	2ユニット合同の介護員会議やユニット会議を年間3～4回開催している。課題があればその都度話し合い、職員の意見や提案をケアや運営に生かしている。開設者の会長も常に職員と話しをしながら、働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の勤務状況を代表者自ら確認するなど状況を把握した上で、時間外労働が必要となった場合においてもしっかりと評価及び手当の支給を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外において研修への参加を主として、スキルアップをできるよう支援されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を促すなど、同業者との交流機会を持つことで、情報交換などをして質の向上に繋げている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に面接をした時や、入居後においても本人が何を思っているのかを傾聴することで、安心感をもてるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前の面接時に、ご家族が不安や心配に思っている事にお応えするなど、安心して頂けるよう事前に要望の聞き取りなどを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを含めた面談機会をもっており、必要とされるサービスなどの聞き取りや見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のもっている能力を活かせるようADLを見極めながら、生活の中で協力したりしながら相手を尊重していくことで関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力をお願いしながら本人の想いや不安などに応えられるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が日頃より利用していた場所へ外出する機会をもったり、地域の行事などに参加することで、関係が途切れないように努めている。	近所に住んでいた方や、一緒に同じ活動をしていた知人が訪ねて来る利用者もいる。手紙やハガキが友人から届き、返事を書いて職員と一緒に投函しに行く方もいる。家族と一緒に自宅に帰ったり、結婚式やお墓参りに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を理解し、利用者様同士の関係に配慮した支援に努めている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居するなどしても面会に行ったりと、本人やご家族様と接する機会をもつようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントからモニタリングを通して、本人やご家族様の思いを活かすよう、聞き取りや検討の場をもっている。	普段の会話や表情、今までの関わりや経験を生かして思いや意向を把握している。生活歴などの書類の統一を考えている。思いや意向の現状が分かる書類の整備は今後の課題となっている。	センター方式(B-3)シートを全職員で作成し、変化に応じて追記したり定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様も含め、経歴の聞き取りや、アセスメント・モニタリングと入居後においても情報のやり取りを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングなどを通し、情報共有も含め、現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議などを通して、必要な支援や職員の声やご家族様などの希望を反映できるよう介護計画を作成している。	全職員が記載した「介護計画書」の評価を基に、家族の意向を聞き取りながら計画作成担当者が6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録に変化などを記入しやすいように、短期目標に沿ったサービス内容の記載方法の変更も考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に合わせた個別化された支援をできるよう、職員間での情報共有をしっかりとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるよう気を付けており、本人の希望なども取り入れた支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントなど他者との交流を通して、入居前と変わらぬ環境を提供できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診に加え、臨時受診など医療機関との関係づくりを行ない、適切な医療が受けられるよう努めている。	以前からのかかりつけ医の往診や受診を継続している利用者もいる。受診は殆ど事業所で支援し、主治医と情報共有しながら適切な医療支援を行っている。個別に受診と往診結果を記録している。	

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も互いに情報共有を行ないながら、必要となる支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診同様に医療機関との情報共有を密に行なうことで、必要な入退院支援の実施に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしていないため、できるだけ早い段階でご家族様と今後の方針を協議するよう努めている。	医療連携体制加算制度を活用していないが、利用開始時に、常時医療行為が必要になったり食事が摂れなくなった時は事業所として対応が難しいことを口頭で伝えている。要介護度に応じて他の施設への移行について相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練などで定期的に対応方法などを学ぶ機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	人災・天災ともについて発生しても大丈夫ように定期訓練において警察や消防など協力体制をとっている。	消防署の協力の下、地域住民も参加して年2回昼夜の火災や地震を想定した避難訓練を実施している。また、消防署の指導で毎年救急救命訓練も受講している。今後は地震時のケア別の対応について話し合いたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を害さないよう、その人がその人らしく生活していけるよう情報共有し、対応している。	本人の希望や家族の意向により、利用者を愛称で呼ぶこともある。利用者の個人情報を職員間で共有する際は、場所を選ぶなど利用者に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により難しい面もあるが、一瞬の表情などできるだけ見落とすことなく、また、声掛け方法も工夫するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースを重視し、できるだけ希望する生活に浴えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や、化粧といった身だしなみや、好きな服を着てもらうなどしている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、調理の下準備を職員と一緒にできたり、片付けを手伝ってもらうなどの取り組みをしている。 また、日々の食事は職員も一緒にしている。	献立は、開設者の会長が作成している。行事に合わせて生チラシにしたり、誕生日は、赤飯など本人の好きな料理を献立に取り入れている。道の駅に出かけて外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から食材を取り寄せたり、こまめに水分補給してもらうなど支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、入居者様のADLにより支援内容を変えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様により、トイレの間隔は違うため、その人により間隔がいつもより長い時など声掛けをするなどして、極力失敗のないように努めている。	排泄チェックシートを使用しながら、利用者ごとに声かけを行っている。状況に応じて職員が介助することもあるが、可能な限り本人ができる行為を行ってほしいながら自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課のようにラジオ体操をするなど定期的に運動をする機会をつくり、飲食においても状態に合わせて提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回と決まっているが、ご家族や入居者様から希望があった時などは、可能な限り実現できるよう取り組んでいる。	入浴剤を使用したり利用者ごとに湯温を調整して、一人週2回の入浴を支援している。入浴中に職員と会話をしたり、希望に応じて湯舟に浸かる時間を調節しながら入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由となる時間を多くもてるように支援しており、入居者様本意となるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法など看護師とも相談をしたりしながら、誤薬が起きないように注意した支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での関わり方において、その人に合った事を見極めながら関わられるようにしており、手伝いやレクなど笑顔で参加できるようにしている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望に沿えるように努めているが、天候等により難しい時には別日に改めるなどしている。また、近郊のイベントなどにも積極的に参加するなどしている。	普段は事業所の周辺を散歩したり、外出が難しい時は、事業所前にあるベンチで外気に触れる機会を設けている。季節に応じてバラ園や道の駅に出かけることもある。利用者の希望にそって、手紙の投函などの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持することはしていないが、買い物など必要に応じて職員と一緒に支払いなどをすることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話や手紙の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好きな物を近くに置いたり、季節毎に装飾したりしている。	廊下には、利用者が製作した季節感のある作品や塗り絵など、色とりどりの装飾が施されている。温度計や湿度計を数か所に設置して、冬季は加湿器を活用しながら過ごしやすい環境を整備している。台所とリビングが対面式になっており、広々とした空間で居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなど、それぞれに好きな場所で生活しており、状況により他者と会話したり、1人でゆっくりしたりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の自室となるので、自分で好きなように装飾をしたり、ご家族様と相談しながら使い慣れた物を持参してもらっている。	各居室にクローゼットが備え付けられている。壁には家族が製作した作品や、職員手作りの誕生日カードが飾られている。馴染みの物や使い慣れた家具などを持参している方もおり、安心して過ごせる快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境の中、入居者様が「したい事」や「できる事」を見極め、必要な支援の下それらを実施している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400105		
法人名	株式会社 大地		
事業所名	グループホーム優芽 2号館		
所在地	北海道苫前郡苫前町字古丹別249番地の9		
自己評価作成日	令和2年1月2日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来たる3月1日で7年目となり、職員のスキル向上のための施設内外での研修会の実施や各種資格取得のサポートなど職員育成に努めています。
また、入居者様の日常生活では状態に合わせて掃除や洗濯など職員と一緒に頑張って頂くことで、ADLの維持・向上に繋がるよう努めています。
その他、ご家族様にはイベントなどがあった場合に参加してもらったり、状況をお便りとして伝えるなど、交流の機会ももてるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0196400105-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念としては、地域密着型よりも利用者様本意を意識した理念設定をしており、従事した当初は意識して業務に当たっていたが、現行ではあまり意識できていない状態であった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域全体での避難訓練や祭典など施設外での交流の場に加え、地元の保育所にご協力頂き、施設内で小規模のお遊戯会を開催するなど施設内外問わずに交流の場をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や散歩などで地域の人との関わりを持つ中で、認知症とはどういった病気で、どのような支援が必要となるのかを見たり、感じてもらえるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域にある様々な職種の方や、行政機関の関係者など多種多様な方々に参加してもらい、各専門分野の事や疑問に思うことなど意見交換を行ないながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当職員と電話またはメールで必要事項等のやり取りを行っており、不明な点等があれば相談または協力をしてもらえるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設理念にも掲げているように身体拘束を行わない意識の元、業務に従事しており、定期的に研修など身体拘束について考える機会を設けている。しかし、利用者様の離設による事故防止のため玄関の施錠はしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する意識向上のため、研修や実例を紹介するなど職員が虐待を行わない事他、他の職員にもさせないように普段からコミュニケーションを図りながら防止に努めている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など、必要な知識を学ぶとともに他の職員にも広められるよう回覧等により周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、書面には無いことでもご家族の不安や疑問に思う点については説明しており、改定などがある場合には不明点が無いよう書面等で対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見や要望を伺ったり、玄関へ意見箱を設置することで直接伝えられない事などについても聞き取りができるよう努め、頂いた意見・要望・苦情等は随時運営に反映できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体での会議の場や、ユニット毎の会議を通して職員の意見等を取り入れられるように取り組んでおり、必要に応じて責任者による検討会議も行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の勤務状況を代表者自ら確認するなど状況を把握した上で、時間外労働が必要となった場合においてもしっかりと評価及び手当の支給を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内・外において研修への参加を主として、スキルアップをできるよう支援されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加を促すなど、同業者との交流機会を持つことで、情報交換などをして質の向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に面接をした時や、入居後においても本人が何を思っているのかを傾聴することで、安心感をもてるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前の面接時に、ご家族が不安や心配に思っている事にお応えするなど、安心して頂けるよう事前に要望の聞き取りなどを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを含めた面談機会をもっており、必要とされるサービスなどの聞き取りや見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のもっている能力を活かせるようADLを見極めながら、生活の中で協力したりしながら相手を尊重していくことで関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力をお願いしながら本人の想いや不安などに応えられるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が日頃より利用していた場所へ外出する機会をもったり、地域の行事などに参加することで、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を理解し、利用者様同士の関係に配慮した支援に努めている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居するなどしても面会に行ったりと、本人やご家族様と接する機会をもつようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントからモニタリングを通して、本人やご家族様の思いを活かすよう、聞き取りや検討の場をもっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様も含め、経歴の聞き取りや、アセスメント・モニタリングと入居後においても情報のやり取りを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングなどを通し、情報共有も含め、現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議などを通して、必要な支援や職員の声やご家族様などの希望を反映できるよう介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に合わせた個別化された支援をできるよう、職員間での情報共有をしっかりとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるよう気を付けており、本人の希望なども取り入れた支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントなど他者との交流を通して、入居前と変わらぬ環境を提供できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診に加え、臨時受診など医療機関との関係づくりを行ない、適切な医療が受けられるよう努めている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も互いに情報共有を行ないながら、必要となる支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診同様に医療機関との情報共有を密に行なうことで、必要な入退院支援の実施に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしていないため、できるだけ早い段階でご家族様と今後の方針を協議するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練などで定期的に対応方法などを学ぶ機会をつくっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	人災・天災ともにいつ発生しても大丈夫ように定期訓練において警察や消防など協力体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を害さないよう、その人がその人らしく生活していけるよう情報共有し、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により難しい面もあるが、一瞬の表情などできるだけ見落とすことなく、また、声掛け方法も工夫するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースを重視し、できるだけ希望する生活に浴えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や、化粧といった身だしなみや、好きな服を着てもらうなどしている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、調理の下準備を職員と一緒にこなったり、片付けを手伝ってもらうなどの取り組みをしている。 また、日々の食事は職員も一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者から食材を取り寄せたり、こまめに水分補給してもらうなど支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、入居者様のADLにより支援内容を変えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様により、トイレの間隔は違うため、その人により間隔がいつもより長い時など声掛けをするなどして、極力失敗のないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課のようにラジオ体操をするなど定期的に運動をする機会をつくり、飲食においても状態に合わせて提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回と決まっているが、ご家族や入居者様から希望があった時などは、可能な限り実現できるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由となる時間を多くもてるように支援しており、入居者様本意となるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法など看護師とも相談をしたりしながら、誤薬が起きないように注意した支援を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での関わり方において、その人に合った事を見極めながら関わられるようにしており、手伝いやレクなど笑顔で参加できるようにしている。		

グループホーム優芽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望に沿えるように努めているが、天候等により難しい時には別日に改めるなどしている。また、近郊のイベントなどにも積極的に参加するなどしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持することはしていないが、買い物など必要に応じて職員と一緒に支払いなどを行うことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には電話や手紙の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好きな物を近くに置いたり、季節毎に装飾したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファーなど、それぞれに好きな場所で生活しており、状況により他者と会話したり、1人でゆっくりしたりする。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の自室となるので、自分で好きなように装飾をしたり、ご家族様と相談しながら使い慣れた物を持参してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境の中、入居者様が「したい事」や「できる事」を見極め、必要な支援の下それらを実施している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム優芽

作成日：令和 2年 1月 31日

市町村受理日：令和 2年 1月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスを意識したケア理念などを作成し、職員間で共有しながら実践に繋げる	地域密着型サービスを意識したケア理念の作成と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット毎や施設全体など規模に合わせた地域密着型サービスを念頭に置いたケア理念の策定 ・職員が理念を意識できるよう掲示場所などの検討 	6ヶ月
2	4	ご家族へも会議の実施や結果の報告をする	推進会議実施毎に参加の確認及び実施後の議事録の送付に内容報告	<ul style="list-style-type: none"> ・開催前にご家族へも郵送などで会議の参加有無を確認 ・会議後の議事録を郵送などで報告 	3ヶ月
3	23	センター方式(B-3)シートを全職員で作成し、状態に応じて追記や定期的な見直しの機会をもつ	センター方式(B-3)シートを使用し、日常生活の変化の共有や担当者会議などに活かしていく	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式(B-3)シートの認識を全職員へ広めるため、実際に配布し、記載してもらう ・日々の変化など個人個人で思うことを追記する ・作成されたものを担当者会議の場に持ち寄り、活用する 	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。